

自然体験事業

冬のチャレンジキャンプ

1 ねらい

国立立山青少年自然の家周辺の冬の自然に親しむとともに、その中で思い切り雪上活動に取り組み、たくましい心身を培う。

2 期日

平成31年2月9日（土）～11日（月・祝日） 【2泊3日】

（ボランティア研修 平成31年1月19日（土）～20日（日） 【1泊2日】）

3 対象

小学校3年生・4年生

4 参加人数／募集人数／応募者数

22名／24名／37名

5 スタッフ・ボランティア

国立立山青少年自然の家職員 4名

法人ボランティア 9名

6 ボランティア研修

国立立山青少年自然の家職員

法人ボランティア 8名



	午 前	午 後	夜
1月19日(土) 1日目	○打合せ ○フィールド下見	○テント設営（テント泊準備） ○雪活動体験 ○夜ごはんづくり（ウインナー入りアルファ米カレー）	○キャンプファイヤー ○ナイトハイク ※雪上テント泊
1月20日(日) 2日目	○朝ごはんづくり（ベーコンエッグトースト、カートンドック） ○テント片付け ○来拝山かんじき登山	○山中にて昼食（カップラーメン・おにぎり） ○ふりかえり ○解散	

7 後援

富山・石川・新潟各県教育委員会、北日本新聞社、Net3

8 日程

	午 前	午 後	夜
2月10日 (土) 1日目	○はじめのつどい ○グループタイム ○昼食（不動棟2階、やきそば）	○テント設営（テント泊準備） ○かんじき練習 ○夜ごはんづくり（ウインナー入りアルファ米カレー）	○ナイトハイク ○ふりかえり ※雪上テント泊
2月11日 (日) 2日目	○朝ごはんづくり（ベーコンエッグトースト） ○テント片付け ○来拝山かんじき登山	○山中にて昼食（カップラーメン・おにぎり） ○来拝山登頂 ○夕食（食堂）	○キャンプファイヤー ○ふりかえり ※ 不動棟3階泊
2月12日 (月・祝) 3日目	○朝食（食堂） ○雪遊び	○昼食（食堂） ○グループタイム ○おわりのつどい	

9 参加者からの感想

- 「何事もチャレンジ」を意識して、なるべく何でもチャレンジしようと思いました。

- 知らない人と班を組んで最初は緊張しましたが、テント張りのころにはもう仲良くなりました。2日目のベーコンエッグトーストがとてもおいしかったです。
- 来拝山登山では、途中で食べたおにぎりとカップラーメンがとてもおいしかったです。また、山頂の景色が良くて疲れが吹き飛びました。
- 来拝山登山は大変だったけれど、登り切った時の達成感はすごかったです。
- キャンプファイヤーでは、伝言ゲームなどいろいろなゲームができてとても楽しかったです。そして、キャンプファイヤーの火がとてもきれいでした。
- ボランティアが服の中に入った雪をとってくれたことがとてもうれしかったです。
- 3日目の雪遊びの時間にクロスカンリースキーを初めてやりました。最初は、転んでばかりいましたが、最後は上手く坂を登れるようになりました。
- テント泊は寒くてあまり寝ることができなかったけれど、温かいベーコンエッグトーストとみそ汁を食べた時はとてもおいしかったです。

10 成果

- 冬のチャレンジキャンプらしく、雪が降ったり、気温が0℃を下回ったりして予想通りの過酷な環境になった。その前提を参加者に伝え、それを克服することを目的として、元気にがんばることを意識させたことは、自然を満喫し、たくましい心を育てる意味で有意義だった。
- 今回、できるだけ不動棟内を使わず、テント周辺で調理や活動などをしたことは、本当の雪山テント泊を意識させ、過酷な環境をできるだけ克服しようと工夫する態度を育てることに効果的であった。
- 2日目の活動を来拝山登山のみに絞ったことは、プログラムの内容にゆとりを持たせることができた。また、3日目の班別雪中活動においても、2時間半という多めの時間をとったため、それぞれのグループで余裕をもった活動を計画することができた。

11 今後の課題

- 参加者・ボランティアともにキャンセルがあった。キャンセルを見込んで多めに受け入れたり、キャンセル待ちのしきみを整えたりする必要がある。
- 今回、応募者数が少なかった。活動内容の過酷さに抵抗があったためか、時期的に学校行事や地域行事と重なる傾向があるのかを明らかにする必要がある。
- 来拝山かんじき登山では、途中トイレがないため、活動時、トイレシェルターをつくるべきであった。
- 雪が不足してクロスカンリースキーやチューブそりができない状況も想定して、プログラムのパターンをいくつか事前に用意すべきである。

